

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690101181		
法人名	社会福祉法人 新川老人福祉会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	富山市水橋市田袋127番地		
自己評価作成日	令和2年10月20日	評価結果市町村受理日	令和3年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人富山県社会福祉協議会
所在地	富山県富山市安住町5番21号
訪問調査日	令和2年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な環境の中で、今までの生活を大切にし、一人ひとりの声に耳を傾け、自己決定・想いを尊重し、その人らしい生活が送れるよう努めています。

・一人ひとりが持っている力を発揮できる場面を考え、自立した生活を楽しむことで生きる喜びをもって頂けるよう支援しています。

・かけがえのない存在、笑いがあふれ安心していつまでもその人らしく過ごして頂けるよう努めています。

・その方にとってを考え関わりの時間(わくわく楽しい時間になるよう)を大切に日々努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・介護あんしんアパートとして運営されていた建物を用途変更して開設した為、居室や風呂、リビング等が広くゆったりとしたスペースとなっており、居室には全室にトイレと押し入れ、洗面ミニキッチンが備えられ、利用者は自由に一人の時間を過ごすことができるようになっている。

・開設をして1年半と間もなく、さらにコロナ禍で思うようなサービスの実践が困難な状況の中でも、法人のノウハウや管理者の経験を活かしながら日々の生活を支援している。

・ドライブ等の遠出だけでなく、日常の外出、散歩、過ごし方についても、隣にある神社や広い前庭等の外部資源を効果的に活用したり、利用者個々の趣味のリスト表を作成して個別の希望に応える等、多くの工夫が見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関入り口に掲示し、職員が共有できるよう努めている。また、月1回の定例カンファレンス時に唱和して振り返り、利用者視点のケアに反映させている。	法人理念は玄関にも掲示され常に意識できるようになっている。さらに事業所としての独自の運営指針と方針を、職員間の話し合いで作成しており、利用者のためのより良いサービス実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員が定期的に「水橋福祉ネット」に参加して交流を図るとともに、福祉ネットの呼びかけで、地域のショッピングセンターや公民館へ作品展示をして利用者の方と一緒に参加している。	水橋地域にある事業者間の交流会に参加している。展示物の出展等、利用者の生きがい作りにも役立っているが、地域自治会を中心とした町内会、近隣住民とのつながりや交流は思うようにできていない。	事業所を利用者の新しい生活の場所として捉えると、利用者にとって身近な町内との交流は重要であるため、今後はコミュニケーションが活発に取れる方法等を検討し、実践される事に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の方と散歩しながら、道端のゴミ拾いを行っている。地域の清掃活動に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会を隔月で開催し、事業報告や質疑応答、相談など行っている。コロナ禍では書面報告をしている。	コロナ禍のため、開催は一度中止して、事業所情報等については紙面での報告となっている。次回は近々に開催する予定としており、日程も決まっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会において、市の職員にアドバイスを相談をしている。介護相談員の訪問が今年度2回ある。	運営推進委員会において状況報告や意見を求めている。開設1年余りのため、深い連携が必要となる事例は今のところはないが、市が設置している介護相談員を受け入れて、意見交換も実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止適正化委員会を3か月に1回開催。身体拘束をしないケアの取り組みを行っている。法人内研修に参加している。	職員は介護経験者が多く、身体拘束をしないケアについてよく理解している。また、法人全体の研修会や、事業所ミーティングでも議題に取り上げ、その実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の外部研修に参加し、学んだことを伝達講習で行っている。「気持ちの悪い・悪い言葉」を掲示し、日々立ち返るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しておられ、制度の理解ができるよう説明は行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を丁寧に説明し、補足での口頭説明も「確認事項」として文書で渡している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方からは、日常のケアを通して思いや願いをくみ取り、その時の「言葉」をケース記録に記載している。家族からは面会時や電話で状況報告や要望・意見の確認を行い、ケース記録に記載している。ケース記録から対応を反映するよう努めている。	意見を聞くための意見箱は設置しているが、利用者からの不満や苦情は今のところはない。ちょっとした言動からうかがわれることは、気づいた職員がケース記録帳に記載し、共有している。また、家族からの希望も同様に記載され、閲覧記録として職員のサインもしっかりと残されている。	現在は意見箱に意見等が寄せられていない現状ではあるが、コロナ禍ということもあり、今後は様々な意見・要望が上がってくる可能性も考えられるため、意見等が出てきた場合にも十分に対応できるような体制を整えられることに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員が常に意見や提案ができるよう環境に配慮している。提案は、定例カンファレンスなどで検討している。	法人本部から担当役員が定期的に訪問し、現場の意見を聴き取るようにしている。管理者も定期的なカンファレンスの他、平素から職員とのコミュニケーションを構築するため、こまめに話しかけることを心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は年に2回人事考課制度を導入し、管理者は職員がやりがいを持てるよう意見を聞いたり、法人本部と連携し評価を行っている。また、ストレスチェックも行い職員のメンタル面にも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々に応じた研修に参加できるよう配慮している。また、OJTとして現場での指導育成を行っている。毎月自己チェック表を記入してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修や委員会を通してサービスの向上に繋げている。また、地域の「水橋福祉ネット」で情報交換など交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の方が新しい環境に慣れて安心して生活できる居場所となるよう、ケアプランにサービスを記載し、信頼関係を築くことができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、契約時などにご家族からの困りごとや要望などを聞くようにしている。入所されてからの状況や様子などをお伝えし安心して頂くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査で知り得た情報をアセスメントし、入所されてからの対応を職員で共有し、実際の状況から対応方法を検討したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方の「生活」を大切に、できることはしてもらい、できないことは職員と一緒に行うなど、暮らしを共にする関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に居室でゆっくり話をしてもらったり、一緒に外出したりして頂いている。コロナ禍ではゆっくり話す場がもてず、写真入りの運営推進会議の報告書を送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで過ごした馴染みの場所に出向いたり、地域の行事に参加したりしている。利用者の近所の方が面会にこられることもある。馴染みの美容室へ行く予定もコロナ禍で中止となった。	友人の付き添いで来所された方が、他の利用者と老人クラブでの友達で有る事が分かり、その後も再び訪ねてきてくれる等、利用者の楽しみとなっている。現在、コロナ収束後に向けて地域との交流も検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人で過ごす時間、大勢いで過ごす時間など、本人の思いを尊重し、ひとりで孤立することがないよう配慮している。大勢での活動として午前・午後、体操をしたり、青空喫茶で外気浴をしたり、利用者同士が楽しい時間を過ごせるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、利用者の家族に様子を伺い、経過を確認しフォローしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、一人ひとりの思いや希望、その方の声をケース記録に書いて職員で共有しケアに活かすようにしている。一人ひとりの思いについては「～ませんか？」と本人の思いを尊重する声かけをするよう努めている。	ケース記録を使用して日常生活の様子を観察したり、本人や家族の意見、要望を日々の関わりの中から収集するよう努めている。また、把握した意向等は全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしについては、家族や在宅のケアマネの方から情報を聞き、入所されてからは状況に応じて本人や家族に聞いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所されてから1週間はセンター方式を使用し1日の過ごし方を記入し把握に努めている。日常的に日々の様子を観察し、個別ケース記録に記入している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族、職員の要望や意見を反映させながら、また日々の個別ケース記録から情報を収集し、また定例カンファレンス時に状況に応じて支援しなければいけない内容や必要なケアを検討しケアプランの作成にあたっている。モニタリングは3か月1回行っている。	面会時に本人、家族との話し合いの場を設けており、個別のケース記録を活用しながら、月1回、全体で定例カンファレンスを行っている。また、随時状態を見てモニタリングも行い、介護計画の見直しに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを個別ケース記録に記入し、状況に応じて、対応しなければいけないことはケースファイルに記載し、ケアの統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の面会において、家族の面会が遠のくと本人・家族ともに心配になられるため、感染予防に配慮した対応を行っている。また、利用者の思いに沿って、家族の協力を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域へ外出は控えているが、地域の図書館から本を借りてきて、読んで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前から受診されているかかりつけ医を継続されている方、入所されて地域の往診を希望されている方がおられる。どちらも必要に応じて主治医に情報提供し、連携を図っている。	受診の際は入所前のかかりつけ医を継続される方や、地域の医療機関からの訪問診療を利用される方がおられ、自由に選択できるようになっている。また、緊急時に備えて個人情報提供記録を作成し、医師との連携も図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には看護師がいいため、状態変化が見られた時は家族に連絡し受診してもらったり、往診の医師に指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院や家族との連携を図り、退院時の状況に応じて相談・支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアを行っていないので、申込時や入所時にはその旨説明している。本人の状態が重度化してきた時には今後について家族と相談している。	入所時に看取りは行っていないことを本人や家族に説明しているが、管理者は今後の検討事項として捉えており、事業所として看取りケアに関する職員研修や支援体制の構築に努めている。	今後も看取りや重度化に対する研修会を継続的に実施され、看取りに向けた支援体制の構築により努められる事に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの研修や緊急時の対応フローを整備し、緊急時の対応の研修も行っている。急変時のファイルを作成し、フローチャートを掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回避難訓練を行っている。火災は日中・夜間想定で行っている。地震想定は計画では11月予定。地域住民参加の訓練は行っていないが、隣接する事業所との協力体制を図っている。ハザードマップを確認し、水災害訓練の対応も検討している。	火災訓練と地震に備えた定期訓練を一緒に行う予定であり、水害対策についても検討している。今後は、地域の方との協力体制を築いていくために、運営推進委員会でも話し合っていく意向である。また、事業所で利用者の名前が入ったタオルを作り、避難の際に本人確認が出来る手法等を工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切に「～ませんか」と本人の意思を尊重、自己決定できるよう努めている。また、言葉遣いについての話し合いを行い、日頃振り返ることができるよう壁に掲示している。	尊厳については、事業所独自の理念に付け加えて掲げている。また、自己評価や外部研修等で学んだ「言葉の虐待」について、職員間で話し合う機会を設け、日々の対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で、できるだけ本人が自己選択、自己決定できる場面を提供していくよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが主体であることを認識し、その方の思いやペースを大切にしよう努めている。その日の気分や体調、何かやってみたいこと、食べたい物、着たい服装など希望に沿うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々のみだしなみや好みなどを尊重し、おしゃれができるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は給食センターから配達してもらっている。月に1・2回手作りの日とおやつ作りの日を設け、利用者の方に調理・盛り付けをしてもらっている。日常的にテーブル拭きやお盆拭き、おしぼり作り、お茶くみを行ってもらっている。行事の日には希望のお寿司をテイクアウトしたりしている。	給食センターから主菜のみ頼んでおり、主食は事業所内で作っている。野菜を切ったり、盛り付けや片付けは利用者と共に行っているが、食事を一緒に取る事はされていない。また、月1、2回利用者と献立を考え昼食作りをしたり、利用者が食べたい料理があればテイクアウトをしたりしている。	今後は、職員が利用者と共に食事を取れるような環境作りを検討し、利用者がより食事を楽しむことができるような支援となることに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは献立に準じたものを提供している。食事量、水分量は職員が常に把握できるようにしている。個々の状態を把握し、食事形態や食器など工夫し利用者に合わせて対応している。嗜好品は移動販売で購入し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔に努め、いつまでもおいしく食べられるよう配慮している。一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。義歯使用者は、義歯洗浄後夜間は装着するよう配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記入することで個々の排泄パターンを把握し声かけを行っている。排泄動作の中で本人ができることはしてもらい、できないところをお手伝いしている。排泄用品においても個々に合わせて配慮している。	居室に洗面台やミニキッチンが設置してあり、自由に水分を摂ることができるため、個別に排泄記録を行い、定期的な声かけに努めている。また、夜間帯も声かけを行っており、居室にあるトイレのドアを開けると鈴が鳴るよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無は排泄表でチェックしている。便秘予防として起床時の牛乳またはヨーグルトを提供し、食物繊維のファイバーを飲み物に入れ、できるだけ自然排便になるよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本週2回、入浴予定を立てて行っているが、個々の体調や気分に合わせてタイミングを見ながら入浴して頂いている。シャンプーやソープなどは本人希望の物を使って頂いている。	利用者の希望があれば自由に入浴でき、入浴を希望されない方にはシャワー浴、足浴を行っている。また、入浴が困難な方にはリフト浴を行っている。一人ずつの入浴としており、好みのシャンプーやリンスを使う等、入浴が楽しめるよう工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中には活動と休息のメリハリをつけ、夜間安眠に繋げている。日中の休息においては、個々の体調に合わせて対応している。また、夜間は照明の明るさや空調に配慮している。朝は障子戸を開け朝の光を感じてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報は、利用者個々のファイルに綴り、職員はいつでも確認できるようにしている。また、薬の変更があった時はケース記録に記入し変更内容を記載している。服薬管理、服薬時の誤薬防止など張り紙し、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた役割(調理・洗濯たみ・軽作業など)無理なく行ってもらっている。週1回移動販売が来て、駐車場で買い物を楽しんで頂いている、その際、好きな物を買って頂きおやつ時に食べて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には施設周辺の散歩をしたり、隣の神社にお参りに行ったりしている。敷地内で青空喫茶をし、風を感じながら体操や歌を歌ったりしている。また、ドライブに出かけるなど気分転換を図っている。	近隣へ散歩したり、駐車場で青空喫茶を行っており、利用者と家族と一緒に茶を飲みながら会話を楽しんでいる。歩行が困難な方もドライブに出掛けたり、せんべい焼きの体験をする等、外出を楽しんでいる。また、移動食品販売車に定期的に来てもらう等、気分転換できるよう努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理ができない方が多く、家族了承のもと小遣いを預かり支払いをしている。定期的に家族に小遣い帳を見せている。自己管理できる方おひとはご自分で支払いなどされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で家族から電話をかけてこられた際は対応している。また、利用者に絵手紙を書いてもらい、家族に渡したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地良い空間作りとして、毎日のようにテーブルに季節の花を飾っている。フロアには利用者の方に作ってもらった季節の作品を展示し、壁には毎月の写真を貼るなど、目で楽しめるようにしている。温度、湿度、光、換気に配慮している。時々アロマなど落ち着ける雰囲気づくりをしている。玄関先の花壇や玄関ポーチの植物など居心地良い空間づくりに努めている。	各テーブルに花を飾り献立を置いており、歌や体操、会話を楽しむ等、交流の場となっている。また、壁には利用者の作品や写真が飾られており、貼り絵や折り紙等で季節感のある空間となっている。玄関前のソファがお気に入りの利用者もあり、職員も利用者と同じ玄関から出入している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブル席は、利用者の相性を考慮し、気の合う方同士が過ごせるような配置にしている。また、歩行器など歩行の障害にならないよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には本人・家族に馴染みの家具などを持ってきていただくようにしている。自宅での環境に近い居室空間となるようにしている。日々の作品など貼ったり、家族の写真など飾ったりしている。	間取が広いため圧迫感がなく、ダンスや流し台、トイレは備え付けとなっており、洗濯物は部屋で利用者と一緒に行っている。また、家族の写真やテーブル、椅子等は使い慣れた物を持ち込めるようになっており、利用者は自宅での生活と同じようにくつろぎながら、一人の時間を楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内のベッドなどの配置は、本人が安全にトイレは行けるようなレイアウトを工夫したり、室内で洗濯物を一緒に干せるよう個々に物干しを設置したりしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成 に要する期 間
1	2	利用者が近隣住人と関わる機会が少ない。	利用者と近隣住人が関わる機会を設けていく。	公民館前にプランタを設置し花を植え、利用者と一緒に水やりなど行う。その際、近隣住人と触れ合う機会を設け、プランターのお花を通してコミュニケーションを図る。	3ヶ月
2	6	意見などが出た場合に十分な対応ができるような体制の整備が必要。	本人・家族からの意見や要望をケース記録に記入し、スピーディに反映できる体制づくりを行う。	本人・家族からの意見・要望は随時ケース記録に記入し、全職員回覧のもと周知する。対応についてはスピーディにすすめるよう努める。また、本人・家族に満足度アンケートを取り、施設運営などに配慮していく。	6ヶ月
3	12	看取りケアを実施していないことを家族に説明しているが、職員の学びとして「看取りケア」「重度化ケア」についての研修や看取り支援体制の検討が必要。	・「看取りケアの研修」や「重度化に対する研修」を実施し、職員の学びを深める。 ・地域の医療関係に相談し、支援体制を検討する。	・「看取りケアの研修」「重度化に対する研修」を実施する。 ・地域の医療関係に相談し、支援体制を検討する。	6ヶ月
4	15	利用者と一緒に食事を摂っておらず、食事時のコミュニケーションがとれていない。	利用者と職員が同じものを食べることにより、嗜好の会話に繋がりが楽しみが持てる。	昼食は利用者と職員と一緒に会話を楽しみながら食事をする(コロナ禍検討)。	3ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。